

洪水ハザードマップが新しくなりました

【地図面】「想定最大規模」と「計画規模」の2種類があります。

▶ **想定最大規模（水色）**

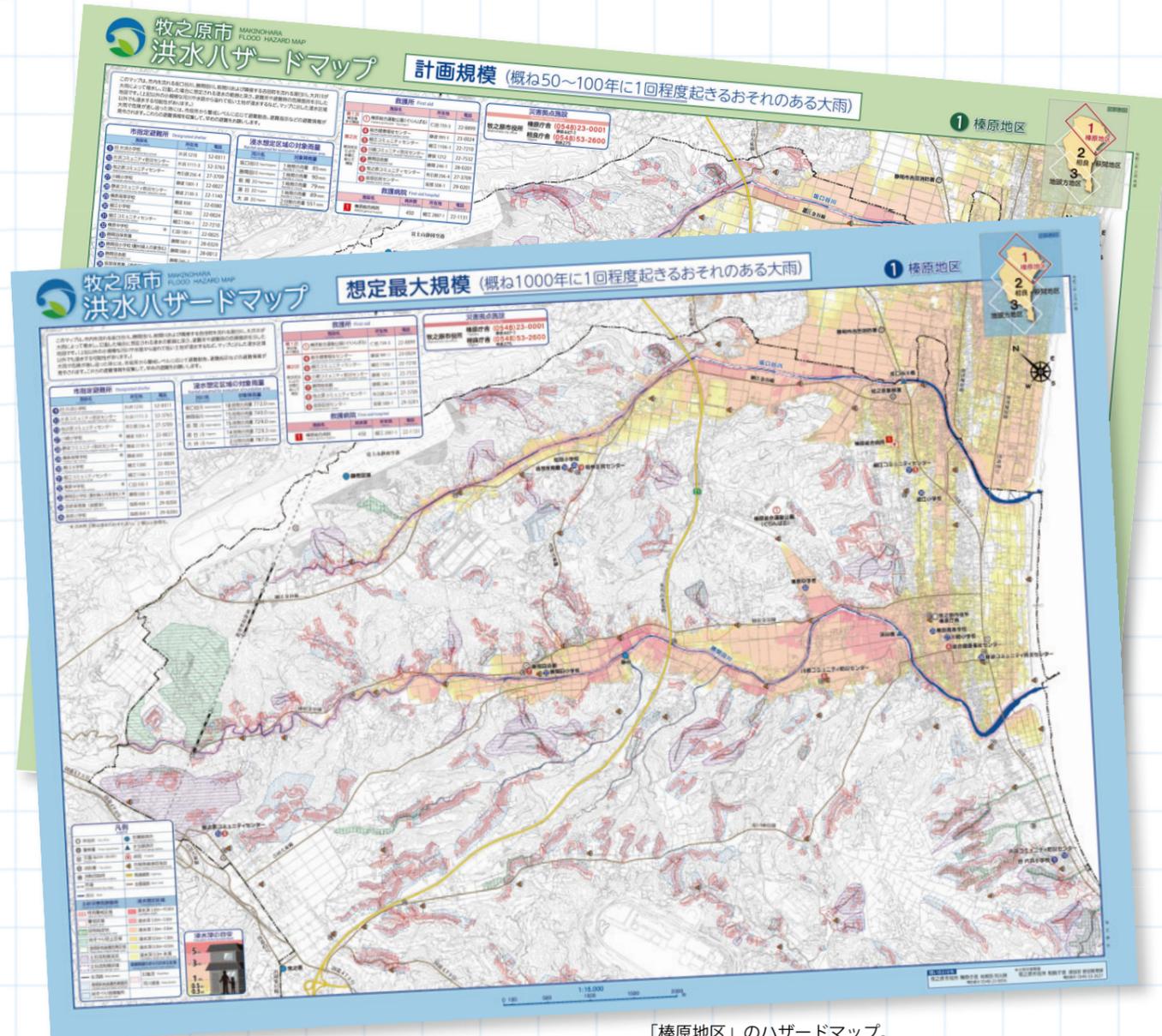
おおむね千年に1回程度起きるおそれのある降雨（想定しうる最大規模の降雨）を想定。

▶ **計画規模（黄緑色）**

おおむね50～100年に1回程度起きるおそれのある降雨（河川改修の際に考慮する規模の降雨）を想定。

本年7月の豪雨や令和元年台風19号、平成30年の西日本豪雨では、暴風や河川の氾濫、土砂災害など、日本各地に甚大な被害をもたらされました。被災した地域は事前に危険性が指摘されていた場所が多く、「ハザードマップ」の重要性が改めて認識されています。市ではこのたび、「洪水ハザードマップ」に新たな情報を盛り込んで更新し、各戸配布しますので、概要などをお知らせします。

問い合わせ 防災課 西原直樹 ☎030056



「榛原地区」のハザードマップ。他に「相良・萩間地区」のものと「地頭方地区」のものがある。

! ハザードマップはあくまでも想定図です。雨の降り方や土地の状態によっては、地図に示された区域以外でも洪水や土砂災害が発生することもありますので、十分に注意してください。

洪水ハザードマップ

「牧之原市洪水ハザードマップ」は「地図面」と「情報面」で構成されています。「地図面」は、坂口谷川、勝間田川、萩間川、隣接する吉田町を流れる湯日川、大井川が降雨により氾濫した場合、浸水する範囲や深さの予想、避難場所、避難経路の危険箇所や土砂災害の危険区域などを表示したものです。「情報面」は、洪水災害に関する基本的な知識や行動のヒント、日頃からの準備などを記載したものです。

日頃から備えましょう

日頃からハザードマップを利用して、非常持出品の準備や避難経路の確認など、災害時の備えについて家族や地域で話し合っておきましょう。また、広報まきのはら5月号掲載「台風や集中豪雨から身を守るために」と、7月号掲載「警戒レベルを理解し風水害に備えましょう」の記事も参考にしてください。特に、7月号掲載記事中の「避難行動判定フロー」とハザードマップを併せて確認し、一人一人の避難の可否を判断してください。

【情報面】